

---

[成果情報名] 「とよみつひめ」におけるイチジク黒葉枯病の総合的防除体系

[要約] イチジク黒葉枯病に対して、薬剤防除体系と枝幹病斑部や枯死部を切除する耕種的防除法を組み合わせることで、被害を抑制できる。

[キーワード] イチジク黒葉枯病、耕種的防除、薬剤防除

[担当部署] 病害虫部・病害虫チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

---

[背景・ねらい]

「とよみつひめ」ではイチジク黒葉枯病が発生しやすく、落葉等により収量に影響を受けている。本病は平成21年に報告された新病害で発生生態や有効薬剤などが不明なため、防除対策に苦慮している。そこで、本病に対する薬剤防除体系と耕種的防除法を開発し、総合的防除体系を確立する。

(要望機関名：南筑後普 (H21))

[成果の内容・特徴]

1. 耕種的防除法と薬剤防除体系を組み合わせた総合的防除体系はイチジク黒葉枯病に対する効果が高い(表1、表2)。
2. 耕種的防除法として、枝幹病斑部を剪定時と発芽期に切除し、トップジンMペースト等で保護する。併せて、感染場所となる枯死部も切除する(表1)。
3. 薬剤防除体系として、効果の高いアミスター10フロアブルとトップジンM水和剤を初発前の6月から7月に3回程度散布する(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. イチジク黒葉枯病防除対策の指導、「とよみつひめ」栽培指針や防除手引き(<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>)に掲載する。
2. アミスター10フロアブルとトップジンM水和剤は耐性菌発生リスクがあるので多用しない。
3. 樹勢の低下は本病の枝幹病斑部の拡大を助長するため、防寒対策や日焼け防止のためのホワイトンパウダーの塗布を行う。

[具体的データ]

表1 イチジク黒葉枯病を主体とした総合的防除体系

月	旬	耕種的防除	薬剤名	対象病害
11月		防寒対策 <sup>1)</sup>		
～		<b>病斑部の切除<sup>2)</sup></b>		
		<b>枯死部の切除<sup>3)</sup></b>		
3月		ホワイトンパウダーの塗布 <sup>1)</sup>		
4月		<b>病斑部の切除<sup>4)</sup></b>		
6月	上旬		コサイドボルドー加用 クレフノン	疫病
6月	中旬		<b>アミスター10フロアブル<sup>5)</sup></b>	黒葉枯病・疫病
6月	下旬	<b>ほぞの切除<sup>3)</sup></b>	ダコニール1000	疫病
7月	上旬		<b>アミスター10フロアブル</b>	黒葉枯病・疫病
7月	下旬	罹病葉の摘葉	<b>トップジンM水和剤</b>	黒葉枯病・黒かび病
8月		〃	アンビルフロアブル	さび病
9月		〃		
10月		〃		

- 注) 1. 樹勢の低下は感染・病斑の進展を助長する。  
 2. 病斑部の切除後、トップジンMペーストや木工用ボンドを塗布する。  
 3. 枯死部から感染するので、切除し、トップジンMペーストや木工用ボンドを塗布する。  
 4. 発芽しない芽に病斑部や枯死部が多いので、発芽後に切除の残りがいないか確認する。  
 5. 太字はイチジク黒葉枯病の防除に必須の手段または資材を示す。

表2 イチジク黒葉枯病に対する総合的防除体系の効果 (平成22～23年)

	試験例数	病斑切除 <sup>1)</sup>	6-7月の防除 <sup>2)</sup>	9月の発病葉率(%) (平均±標準偏差)
総合的防除	4	有	有	4.7 ± 5.1
耕種的防除のみ	1	有	無	14.0
薬剤防除のみ	5	無	有	13.7 ± 10.6
慣行防除	8	無	無	35.7 ± 14.2

- 注) 1. 病斑切除の有は病斑数を1樹当たり2個以下にした場合を示す。  
 2. 防除の有は6月中～下旬と7月に効果の高いアミスター10フロアブルかトップジンM水和剤をそれぞれ1回以上散布している場合を示す。

[その他]

研究課題名：イチジク黒葉枯病の発生生態の解明と防除

予算区分：経常

研究期間：平成23年度 (平成21～23年)

研究担当者：菊原賢次